

インターバンクの声（2015 年 12 月 1 日）

11月の最終営業日となった昨日は、アジア市場では金曜日に続いて中国株が下落幅を拡大していたが、為替市場の値動きは終日にわたって穏やかだった。欧州市場では、木曜日の欧州中央銀行（ECB）理事会の追加金融緩和と月中の米利上げ観測を背景にドル買いを進める動きが先行、さらにロンドン4時のフィキシングで月末の買い需要が強まったが結局、この時間帯が昨日のドルのピークだった。ニューヨーク市場は、シカゴ PMI などの米経済指標が予想を下回るような冴えない内容となり、年末商戦に失望感が出始めていることもあって、株価が値下がりしたものの、為替市場への影響は少なかった。市場には ECB 理事会も米雇用統計に続く米連邦準備理事会（FRB）の利上げも思惑通りに進みそうだとの緩い空気が流れ始めているが、相場に限らず現実には得てして予想とは違った結果になることも少なくない。今日の中国製造業 PMI や豪中央銀行（RBA）理事会決定などによる、思わぬ相場展開の急変にはいつも注意が必要だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。